

日本におけるプロアスリートのセカンドキャリアに関する研究 ～Ｊリーグのキャリアサポートセンターを例にして～

The second carrier of the professional athlete in Japan

1K06B190

指導教員 主査 宮内孝知先生

星野 俊樹

副査 武藤泰明先生

【研究動機・目的・方法】

近年、日本のスポーツ界では、競技引退後にメディアに度々登場する元プロアスリートを見ることができる。しかし、その一方で、競技引退後に競技と離れた自分自身を受け入れられずに、深刻なアイデンティティ危機を引き起こしてしまう選手もいる。これは、現役選手として競技を続けている間に、競技引退への準備が不足しているからである。そこで、本研究では、アスリートが競技引退をする時のキャリアサポートに目を向け、アスリートのアイデンティティ喪失の要因とそのサポートのあり方を明らかにすることを目的とする。本研究では、日本のスポーツ界の中でもキャリアサポートに関して先進的な試みを行っているＪリーグに焦点を絞り研究を進めた。

【Ｊリーグキャリアサポートセンターの取り組み】

Ｊリーグのキャリアサポートセンターが実際にどのような目的をもって立ち上げられたのか、どのように取り組んでいるのかを、ホームページを参考に検証した。また、Ｊリーグ関係者のインタビューを通して実態を明らかにした。その結果、企業と提携することによって実現した英会話の無料講座や就業体験など、数多くのプログラムを提供していることを明確にした。

【海外の先進国の実情とＪリーグとの比較】

ドイツやオーストラリアなど、世界の中でもキャリアサポートに対して非常に積極的であり、かつ評価の高い国のキャリアサポートのシステムを検証し、Ｊリーグのシステムと比較した。その中で、Ｊリーグのキャリアサポートにとって何が不足して

いるのか、また、どのような部分が優れているのかを検証した。検証にあたっては、過去の先行研究や文献を使用した。その結果、Ｊリーグでは世界のキャリアサポート先進国のシステムを模範とし、様々な活動をしていることが明らかになった。

【アスリートの視点からみるキャリアサポート】

セカンドキャリアをサポートする側からだけではなく、実際にサポートを受ける側の視点からキャリアサポートの問題点を検証した。検証方法は、現役Ｊリーガーと元Ｊリーガー、プロの誘いを断った選手の３人へのインタビューである。その結果、先行研究で問題とされていたキャリアサポートの認知という点は改善されていることが明らかになった。しかし、キャリアサポートセンターの認知やプログラムよりも、セカンドキャリアに対する純粋な知識や競技引退への実感を持っていないなど、教育的な面に問題があることが浮き上がった。

【結論】

調査・検証の結果、Ｊリーグキャリアサポートセンターの問題点は、不定期に訪れる競技引退に対して現実感や危機感を選手に持たせられていないこと、つまり、キャリア教育であることが明らかになった。自分自身の競技引退に対し、現実的に捉えることができない選手が多く、英会話教室や就業体験、競技引退後の就職先の紹介など、プログラムをどんなに充実させても、選手がセカンドキャリアに対しての意識を高め準備を進めなければ、結局選手はサポートを求めずにプログラム自体が意味のないものになってしまうことが明らかになった。Ｊリーグキャリアサポートセンター

は、発足からわずか 8 年間の間に先進国を模範とし、様々なプログラムをつくり飛躍的に成長してきた。これからのキャリアサポートでは、このキャリアサポートの根底にあるキャリア教育の部分でのより一層の充実が求められると言える。